

## 土方正志◎荒蝦夷

1962年、北海道生まれ。東北学院大学卒。著書に『ユージン・スミス 楽園へのあゆみ』(偕成社/産経児童出版文化賞)、『震災編集者 東北のちいさな出版社〈荒蝦夷〉の5年間』(河出書房新社)など。読売新聞読書委員会委員。仙台短編文学賞実行委員会代表。〈荒蝦夷〉は2012年出版粋会新聞社学芸文化賞を受賞。

- ①『ワルプルギスの夜 マイリンク幻想小説集』/グスタフ・マイリンク(垂野創一郎訳)/国書刊行会/4968円
- ②『アンチクリストの誕生』/レオ・ペルッツ(垂野創一郎訳)/ちくま文庫/972円
- ③『火の書』/ステファン・グラビンスキ(芝田文乃訳)/国書刊行会/2916円
- ④『夢と幽霊の書』/アンドリュー・ラング(ないとうふみこ訳)/作品社/2592円
- ⑤『FUNG I 菌類小説選集第1コロニー』/O・グレイ&S・M・ガルシア編(野村芳夫訳)/Pヴァイン/1728円
- ⑥『定本 夢野久作全集第1巻』/夢野久作/国書刊行会/10260円
- ⑦『「新青年」版 黒死館殺人事件』/小栗虫太郎/作品社/7344円
- ⑧『署名はカリガリ 大正時代の映画と前衛主義』/四方田犬彦/新潮社/2592円
- ⑨『羽ばたき 堀辰雄初期ファンタジー傑作集』/堀辰雄/彩流社/2376円
- ⑩『メーゾン・ベルビウの猫』/椿實/幻戯書房/4860円

①はあの『ゴーレム』のマイリンク(1868~1932)の作品集。ロシア革命の同年に発表された表題作は、第1次世界大戦下のプラハがある「魔」によって滅びゆく、その破壊はまさに革命のごとく、赤旗を掲げた群衆に自動小銃が向けられて、いやはや、幻想と現実がスリリングに交錯します。白水Uブックス『ゴーレム』も、ぜひ。②はこのところ泰西幻想文学好きに静かな熱狂を巻き起こしている作家ペルッツ(1882~1957)の、文庫初お目見え中短編集です。歴史幻想伝奇小説や迷宮的探偵小説などなど豪華絢爛なペルッツ世界への入門編。③は「ポーランドのポー」グラビンスキ(1887~1936)の『動きの悪魔』と『狂気の巡礼』に続く短編集第3弾。テーマは「火」です。装幀も見どころです。④はおよそ120年前の「怪談実話集」。著者(1844~1912)は作家で英心靈現象研究協会会長も務めました。ポルターガイストや幽霊屋敷などなど怪異譚が次々と紹介されますが、思い出すのは柳田國男『遠野物語』。それもそのはず本書は明治日本にも影響を与えて、夏目漱石が作中で触れ、『遠野物語』誕生の契機を作った水野葉舟が翻訳を試みたり、彼の地のスピリチュアリズムと『遠野物語』の世界はきっとどこかで繋がっています。⑤はキノコがテーマの幻想SFアンソロジー。海外作家たちもみんな東宝映画『マタンゴ』が大好き! 続く「第2コロニー」が待ち遠しいです。⑥と⑦はいわずと知れた日本怪奇幻想探偵小説の巨星2人の作品。未読の人はこの機会に、ぜひ。夢Q全集は第3巻まで既刊です。⑧は夢Qや黒死館が生まれた時代を知るための副読本として。独映画『カリガリ博士』が大正時代の映画や文学に与えた影響を探ります。思わず『大泉黒石全集』を買ってしまいました。⑨はといえばあの『風立ちぬ』の堀辰雄(1904~1953)がこんな作品群を残していたとは! うれしいおどろきでした。⑩は伝説の作家(1925~2002)の短編集。生前唯一の作品集『椿實全作品』も古本屋さんで見かけたら即買いです。

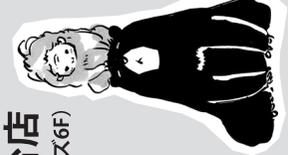
## 東雅夫◎アンソロジスト/文芸評論家/怪談専門誌『幽』編集顧問

1958年、神奈川県生まれ。早稲田大学卒。著書に『遠野物語と怪談の時代』(角川選書/日本推理作家協会賞)、『百物語の怪談史』(角川ソフィア文庫)、編纂書に、ちくま文庫「文豪怪談傑作選」、平凡社ライブラリー「文豪怪異小品集」、汐文社「文豪ノ怪談ジュニア・セレクション」の各シリーズなど。

- ①『異形のものたち』/小池真理子/KADOKAWA/1512円
- ②『岩塩の女王』/諏訪哲史/新潮社/2268円
- ③『迷い家』/山吹静侘/KADOKAWA/1620円
- ④『やみ窓』/篠たまき/KADOKAWA/1620円
- ⑤『只野真葛の奥州ばなし』/只野真葛(勝山海百合現代語訳)/荒蝦夷/2268円
- ⑥『「イタコ」の誕生 マスメディアと宗教文化』/大道晴香/弘文堂/4860円
- ⑦『里山奇談』/coco・日高トモキチ・玉川数/KADOKAWA/1512円
- ⑧『夢と幽霊の書』/アンドリュー・ラング(ないとうふみこ訳)/作品社/2592円
- ⑨『蔵書一代 なぜ蔵書は増え、そして散逸するのか』/紀田順一郎/松籟社/1944円
- ⑩『「新青年」版 黒死館殺人事件』/小栗虫太郎(山口雄也校註)/作品社/7344円

「ホラー・ジャパネスク」以降のホラー/怪談ブームの先覚者として、折にふれ良質の怪談文芸作品を生み出してきた小池真理子の最新作品集が①。とりわけ後半、「ゾフィーの手袋」「山荘奇譚」「緋色の窓」と続く恐怖のつるべ打ちは比類がない。澁澤龍彦没後30年のメモリアル・イヤーに、『暗黒のメルヘン』の正系を継ぐ②が登場したのは悦ばしき出来事だった。文体に淫するとはこういうことだし、文体に淫することを知らない者の書く小説が面白かった例などないのだ。③はホラー大賞、④は今は亡き『幽』怪談文学賞の受賞作。前者はズブズブに「おばけずき」で覇気を感じさせる力作、後者は静謐な語り口と意表を突く視点の転換がお見事。ちなみに④の(異界サイドの)舞台は東北の大地を想起させるが、⑤と⑥も「みちのく怪談」と所縁の深い本である。仙台藩医の娘として江戸に生まれ、再婚後は仙台に暮らした只野真葛は、女性作家としてのみならず怪談実話作家の先駆でもある。その代表作が、やはり仙台に所縁ある著者によって、しなやかな現代語に移されたことを歡びたい。東北の霊的風土のシンボルというべき「イタコ」の習俗と、それがマスメディアを通じて戦後オカルト・ブームの醸成にひと役かうに至る経緯を説く⑥の著者もまた東北出身で、自身もイタコの血を受け継いでいるという。田中康弘『山怪』の大ヒットを契機に高まりをみせる「山の怪談」ブームだが、⑦は昆虫や鳥や植物を目当てに里山を探訪する同好の士トリオによる好著。「いかに語るか」にこそ怪談の要諦はあり、ということを確認とわきまえている点が、類書から一頭地を抜いている所以だろう。そもそも怪談実話というジャンルは、洋の東西を問わず古くから存在しているわけだが、本場・英国におけるその大古典たる⑧が今年、思いがけず全訳(部分訳は、かの水野葉舟がいち早く手がけているが)されたことは、嬉しい驚きだった。碩学ラングの多面的な文業は、もっと評価されてよい。決して童話集だけの人ではないのだ。私淑する紀田順一郎先生の新著である⑨は、何とも傷ましく、また他人事ではない痛切さに満ちた苦衷の書。本好きの未来は、かくも暗いのか……。昨年から今春にかけて註釈地獄に喘いだ(来年もまた!)身にとって、やはり他人事でない⑩には本当に勇気づけられた。一点集中が生んだ偉業である。

# 今年もやります！ スペースハルトークイベント 怪談&幻想文学2017



東雅夫(アンソロジースト/文芸評論家/怪談専門誌『幽』編集顧問) + 黒木あるじ(作家) + 土方正志(荒蝦夷)が、A・クローリー『麻薬常用者の日記』全3巻(国書刊行会)が話題の英米文学翻訳家にして東北学院大学教授の植松靖夫さんをゲストに、2017年の怪談・幻想文学をご紹介します！

PART 1 怪談&幻想文学ベストブックトーク2017  
PART 2 怪奇幻想文学翻訳ウラ話  
～ラヴクラフト、クローリーからブラックウッドまで～

日時：2018年**1月20日**(土) 13:00～15:30



会場：喜久屋書店仙台店  
(仙台市青葉区中央4-1-1 イービーンズ6F)

入場：無料

お問い合わせ：022-716-2021  
(喜久屋書店仙台店)

◎東雅夫の仕事2017◎  
『文豪ノ怪談ジュニア・セレクション』『恋』『呪』『霊』/汐文社/各1728円  
『文豪妖怪名作選』/創元推理文庫/929円  
『山怪実話大全 岳人奇談傑作選』/山と溪谷社/1296円  
『夢Q 夢魔物語 夢野久作怪異小品集』/平凡社ライブラリー/1620円  
『澁澤龍彦玉手匣(エクラン)』/河出書房新社/1728円  
『幻想の坩堝 ベルギー・フランズ語幻想短編集』/松籟社/1944円  
『英訳版 絵本化鳥』/国書刊行会/2160円  
『幽』27号「山田風太郎」/KADOKAWA/1990円  
『幽』28「山妖海怪、奇奇怪怪」/KADOKAWA/1990円

◎黒木あるじの仕事2017◎  
『怪談実話 終』/竹書房文庫/702円  
『怪談四十九夜 怖気』/黒木あるじほか(共著)/竹書房文庫/702円  
『體管記』/山下昇平(絵)・黒木あるじ(文)・夏目ふみ(装幀)/私家版/2500円  
『タロット奇譚』/集英社『小説すばる』2017年1月号掲載  
『夜のスケッチ』/集英社『小説すばる』2017年4月号掲載  
『掃除屋(クリナー)』/集英社『小説すばる』3月号より隔月連載

◎荒蝦夷の仕事2017◎  
『震災学 vol.10』/東北学院大学/荒蝦夷/1944円  
『震災学 vol.11』/東北学院大学/荒蝦夷/1944円  
『石巻学 vol.3』/石巻学プロジェクト/荒蝦夷/1620円  
『只野真意の奥州ばなし』/勝山海百合現代語訳/荒蝦夷/2268円

◎荒蝦夷(みちのく怪談)シリーズ◎好評発売中！  
『渚にて あの日からの(みちのく怪談)』/東北怪談同盟編/荒蝦夷/2484円  
『みちのく怪談コンテスト傑作選2011』/高橋克彦・赤坂憲雄・東雅夫編/荒蝦夷/1620円  
『みちのく怪談コンテスト傑作選2010』/高橋克彦・赤坂憲雄・東雅夫編/荒蝦夷/1620円  
『みちのく怪談名作選 vol.1』/東雅夫編/荒蝦夷/2376円  
『山田野理夫 東北怪談全集』/山田野理夫著/荒蝦夷/1944円  
『杉村顕道怪談全集 彩雨亭鬼談』/杉村顕道著/荒蝦夷/1944円  
『みちのく異界遺産～やまかた篇～』(DVD)/黒木あるじ監修/荒蝦夷/2057円

## 黒木あるじ◎作家

1976年、青森県生まれ。東北芸術工科大学卒。2009年に第7回ピーケーワン怪談大賞で佳作を、第1回『幽』怪談実話コンテストで「ブンまわし賞」を受賞。近著に『怪談実話 終』(竹書房文庫)、『無惨百物語 みちづれ』(角川ホラー文庫)など。集英社『小説すばる』にプロレス小説「掃除屋」を連載中。

- ①『死の舞踏』/スティーヴン・キング(安野玲訳)/ちくま文庫/1620円
- ②『荒俣宏妖怪探偵団 ニッポン見聞録<東北編>』/荒俣宏・荻野慎譜・峰守ひろかず/学研/1728円
- ③『世界をまどわせた地図』/エドワード・ブルック=ヒッチング(関谷冬華訳)/ナショナルジオグラフィック/2916円
- ④『驚異の未来生物 人類が消えた1000万年後の世界』/マルク・ブレー&セバスティアン・ステイエ(森健人監修・遠藤ゆかり訳)/創元社/2484円
- ⑤『コックリさんの父 中岡俊哉のオカルト人生』/岡本和明・辻堂真理/新潮社/1620円
- ⑥『「イタコ」の誕生 マスメディアと宗教文化』/大道晴香/弘文堂/4860円
- ⑦『性食者』/赤坂憲雄/岩波書店/2916円
- ⑧『神秘大通り(上下巻)』/ジョン・アーヴィング(小竹由美子訳)/新潮社/各2484円
- ⑨『くちなし』/綾瀬まる/文藝春秋/1512円
- ⑩『海鰻荘奇譚』/香山滋/河出文庫/886円

ホラー小説の大家による恐怖論の名著 ①は、3度目の復刊。今回は序文が増補され、さらに読み応えのある一冊に。②は博覧強記のアラマタ先生が東北を縦横無尽に駆けまわる、民俗学的ミステリールポ。『遠野物語』の新たな扉を開く、スリリングかつおっとりした展開がとても魅力的。③は古今東西の偽地図をカラーでふんだんに盛りこんだ、ナショジオ面目躍如の豪華本。〈ニセモノ〉から炙りだされる世界の真実が嬉しい。④は、名著『アフターマン』の系譜に連なる〈架空未来シミュレーション〉。最新のCGで描かれた1000万年後の生物たちは、眺めているだけで胸が躍ること間違いなし。⑤は昭和の子供たちが夢中になった降霊術「コックリさん」を世に広めた男の生涯を追うノンフィクション。「昭和のオカルトブームはいかにして誕生したか」をめぐる検証が、非常に興味深い。⑥は青森県の口寄せ巫女「イタコ」をめぐる現代史を、新聞や雑誌、観光にいたるまで多彩な視点で考察した力作。鋭くもあたたかさに満ちているまなごしは、青森出身の作者ならではの。⑦は民俗学者である著者が性と食をテーマに、あまたの文献を紐解き考察を重ねる随想集。「生きること」と「殺すこと」をめぐる思考のパッチワークは、読んでいるこちらまで丸裸になっていくような興奮を与えてくれる。『ガープの世界』で知られた作者による。⑧は、超能力を持つ妹とその兄の数奇な運命を描く、あまりにも壮大なる長編。その主題が「邂逅」と「鎮魂」であると気づいた時、この小説は私たちの物語になるはずだ。⑨はやわらかな文章に定評のある作者が紡いだ、幻想的な短編集。別れのしるしに自分の腕を贈る不倫相手、結婚相手を選ぶ寄生虫、蛇になって愛するものを食らう女……「あちら」と「こちら」の境をさまようモノたちに、いつしか幻惑されてしまう。⑩は『ゴジラ』の原作者として名高い幻想小説の名手・香山滋の初期傑作選。怪しき秘境ロマンとエロスが交錯する、いずれも傑作ぞろいな宝石箱のごとき一冊。